

生成 AI を活用した他社特許技術牽制戦略 : 実践ガイド

Genspark

生成 AI 技術の急速な発展により、特許戦略の立案・実行方法が大きく変わりつつあります。特に他社技術を牽制するための出願戦略や、競合特許の抜け穴を見つけて新たな技術アイデアを生成する手法は、従来の手作業に比べて効率的かつ精緻に行えるようになってきました。本稿では、生成 AI を活用した他社特許技術牽制の具体的な方法論と、関連する書籍・セミナー情報を紹介します。

1. 生成 AI による他社技術牽制の基本戦略

1.1 技術牽制のための特許出願とは

特許出願による技術牽制とは、自社の知的財産権を戦略的に活用して競合他社の技術開発や市場参入を抑制する手法です。[AI 研究所](<https://ai-kenkyujo.com/news/ai-tokkyo/>)によれば、特許出願には以下の 2 つの牽制効果があります：

- 競合他社の参入ブロック:** 特許権を取得すれば、その技術を法的に保護し、競合他社が同様の技術を用いた製品・サービスを開発・販売することを防ぐことができます。
- 心理的牽制効果:** たとえ特許取得が難しい場合でも、出願自体が競合他社への抑止力となります。競合他社は技術の詳細を把握しづらくなり、特許侵害のリスクを負う可能性があると考えるためです[TRYETING](<https://www.tryeting.jp/column/5758/>)。

1.2 生成 AI を活用する利点

生成 AI を特許戦略に活用する主な利点は以下の通りです：

- 情報処理の効率化:** 膨大な特許情報を短時間で分析し、技術トレンドや競合の開発戦略を把握
- 新たな発明の創出:** 既存特許の組み合わせや類推からの新規アイデア生成
- 明細書作成の迅速化:** 発明の記述を効率的に文書化し、出願プロセスを加速
- 戦略的な出願領域の発見:** 競合技術の隙間や未開拓領域の特定

ソフトバンクグループの孫正義会長が生成 AI を活用して特許を大量出願した例は、その効果を示す象徴的な事例です[日経クロステック](<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02938/090500006/>)。

2. 競合特許の抜け穴を見つける方法

2.1 特許競合分析の手法

生成 AI を活用した特許競合分析により、競合他社の技術的強みと弱み、そして「抜け穴」を効率的に特定できます。

2.1.1 特許データベースを活用した基本分析

[海口特許事務所](<https://kaiguchi-office.com/column/detail/20250304082730/>)によれば、競合分析の基本手順は以下の通りです：

1. キーワード検索と技術分類コードの活用: 特許データベースを用いて、関連する特許情報を広範に収集
2. 時系列分析: 出願日や公開日を基に技術の進化を追跡
3. 引用関係の分析: 他の特許との関連性や影響力を評価
4. 特許マップの作成: 技術領域を視覚化し、空白領域（＝抜け穴）を特定

2.1.2 生成 AI による高度分析

生成 AI を活用することで、従来の分析手法をさらに発展させることができます：

1. GPT による技術分類と自動付与: 特許文書から技術的特徴を抽出し、独自の分類体系で整理
2. テキストマイニングによるキーワード抽出: 頻出語や重要概念を自動抽出
3. BCG マトリクスによるポートフォリオ分析: 技術の成長性と市場シェアを視覚化
4. 多次元マッピング: 複数の技術要素を組み合わせた空間での位置づけを分析

[note.com](https://note.com/yu_py/n/n673a6791ffe1)の事例では、孫正義氏の特許を生成 AI で分析することで、「人間の状態や行動の"意味"を理解し、応答・生成する AI システム」への集中的な投資という戦略が明らかになっています。

2.2 競合特許の「抜け穴」の発見方法

競合特許の抜け穴、すなわち出願可能な隙間を見つけるための具体的な方法は以下の通りです：

1. 請求項の範囲分析: 競合特許の請求項（クレーム）を詳細に分析し、保護されていない技術的要素を特定
2. 技術要素の組み合わせ: 既存特許が個別に保護している技術要素を新たに組み合わせる

可能性を探索

3. **用途拡張の検討:** 特定分野向けの技術を異なる分野に応用する可能性を分析

4. **実施形態の拡張:** 特許に記載されていない実施形態や応用例を検討

生成 AI を活用すると、これらの分析を自動化・効率化できるだけでなく、人間が見落としがちな関連性や新たな組み合わせのアイデアを提示してくれます。

3. 出願可能な技術アイデアの生成

3.1 生成 AI を活用したアイデア創出プロセス

生成 AI を用いて競合特許の抜け穴を埋める新たな技術アイデアを創出するプロセスは以下の通りです：

1. **課題設定:** 競合特許が解決していない技術的課題や不十分な点を特定
2. **プロンプト設計:** 適切な指示（プロンプト）を作成して生成 AI に入力
3. **アイデア生成:** 生成 AI による技術的アイデアの提案
4. **評価と改良:** 生成されたアイデアの評価と反復的な改良
5. **実装可能性の検証:** 提案されたアイデアの実現可能性の評価

『生成 AI を活用した特許明細書の書き方』([yorozuipsc.com])(<https://yorozuipsc.com/blog/openai-o1ai>)では、このようなプロセスに関する具体的なガイドラインが提供されています。

3.2 効果的なプロンプト設計

生成 AI から質の高い技術アイデアを引き出すためのプロンプト設計のポイントは以下の通りです：

1. **技術的背景の詳細な説明:** 関連する技術分野と現状の課題を明確に記述
2. **競合特許の制約条件の提示:** 回避すべき競合の特許請求範囲を具体的に提示
3. **目標とする効果の指定:** 達成したい技術的効果や性能向上の目標を明示
4. **制約条件の明確化:** 技術的、経済的、法的な制約条件を明示
5. **複数の視点からの要求:** 異なる角度からのアプローチを要求

例えば：

...

以下の技術的課題に対して、競合特許 X の請求項 1 「～～～」を回避しつつ、同等以上の効果を達成する新たな技術的解決策を 5 つ提案してください。各提案には、技術的原理、実現方法、予想される効果、および競合特許との差異を含めてください。

技術的課題：[課題の詳細記述]

制約条件：[制約条件のリスト]

期待される効果：[目標とする効果]

4. 他社の技術に関連する新しい実施例の生成

4.1 実施例生成の戦略的意義

他社の基本特許に対して、その応用領域や実施形態に関する新たな特許を出願することは、以下の戦略的意義があります：

1. クロスライセンスの基盤構築: 相互にライセンスを交換できる知的財産を確保
2. 技術応用の主導権確保: 特定の応用分野での主導権を確立
3. 将来の技術展開の先取り: 技術の進化方向を先取りして特許を押さええる
4. 交渉力の強化: 他社との交渉における自社ポジションの強化

4.2 生成 AI による実施例生成の手法

生成 AI を活用して、他社特許技術に関連する新たな実施例を生成する具体的な手法は以下の通りです：

1. ドメイン転換法: 特定の技術を異なる業界や用途に適用する実施例を生成
 2. パラメータ最適化法: 既存技術の動作パラメータを最適化した実施例を生成
 3. 統合アプローチ法: 複数の技術要素を統合した新たな実施例を生成
 4. スケーリング法: 技術を異なるスケール（大規模化・小型化など）に適用した実施例
- 生成 AI にプロンプトを与える際のポイントとして、『生成 AI 等を用いた特許文書品質向上のための取り組み』([aamtjapio.com](https://aamtjapio.com/kenkyu/files/symposium2024/tanigawa.pdf))では、基本プロンプトと改良プロンプトの併用が推奨されています。

実施例生成のプロンプト例

以下の特許技術に関連する新たな実施例を 3 つ生成してください。各実施例は、基本特許の技術的原理を応用しつつも、異なる用途、スケール、または技術的アプローチを採用した

ものとしてください。

基本特許の概要：

[特許の概要]

請求項 1：

[請求項の内容]

各実施例について、以下の要素を含めて詳細に記述してください：

1. 技術的構成
 2. 動作原理
 3. 想定される効果
 4. 基本特許との差異点
 5. 図面の概要説明
- ...

5. AI 特許取得の条件と注意点

5.1 AI 特許取得の基本条件

AI 関連の特許を取得するためには、以下の条件を満たす必要があります [AI 研究所] (<https://ai-kenkyujo.com/news/ai-tokkyo/>) :

1. **新規性:** 過去に公開されていない新しい発明であること
 2. **進歩性:** 当業者が容易に想到できない技術的創意が含まれていること
 3. **明確性:** 発明の内容が明確かつ詳細に記載されていること
 4. **実施可能性:** 発明が技術的に実現可能であること
- 特に生成 AI を用いた発明に関しては、AI の学習結果自体ではなく、学習方法やモデル構造、あるいは応用方法に関する特許が取得しやすい傾向にあります。

5.2 明細書作成のポイント

生成 AI を活用して特許明細書を作成する際のポイントは以下の通りです：

1. **具体的な実施例の充実:** 抽象的な記述だけでなく、具体的な実施例を複数提示
2. **技術的効果の明確化:** 発明による技術的効果を具体的かつ定量的に記述
3. **クレーム階層の最適化:** 基本的なクレームと、それを特定化した従属クレームの構成
4. **先行技術との差異の明示:** 先行技術との違いと優位性を明確に説明

『AI 関連発明の特許明細書の書き方』 ([発明推進協会]) (<https://www.amazon.co.jp/AI-%E9%96%A2%E9%80%A3%E7%99%BA%E6%98%8>

E%E3%81%AE%E7%89%B9%E8%A8%B1%E6%98%8E%E7%B4%B0%E6%9B%B8%E3%81%AE%E6%9B%B8%E3%81%8D%E6%96%B9-%E6%A9%9F%E6%A2%B0%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%81%AE%E6%8A%80%E8%A1%93%E7%9A%84%E7%89%
B9%E6%80%A7%E3%81%AB%E5%BF%9C%E3%81%98%E3%81%9FAI%E9%96%A2
%E9%80%A3%E7%99%BA%E6%98%8E%E3%81%AE%E9%A1%9E%E5%9E%8B%E5
%8C%96%E3%81%A8%E3%80%81-%E5%90%84%E9%A1%9E%E5%9E%8B%E3%81
%AE%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%83%97%E3%83%AB%E6%98%8E%E7%B4%B0
%E6%9B%B8%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3
%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89-%E5%B2%A9%E7%94%B0%E8%AB%AD/dp/482
7114099)では、AI 関連発明を 6 つのタイプに分類し、それぞれの特許明細書の書き方を詳細に解説しています。

6. 実践的なツールとサービス

6.1 生成 AI 活用ツール

1. **Tokkyo.Ai:** 特許生成 AI を活用して特許明細書や請求範囲を自動生成し、類似特許を調査するプラットフォーム [Tokkyo.Ai] (<https://www.tokkyo.ai/pvt/gpt/>)
2. **Patentfield AIR:** 生成 AI を活用した特許調査・分析ツールで、技術トレンドや競合分析をサポート [Patentfield] (<https://patentfield.com/news/268>)
3. **ユアサポ AI:** 生成 AI を活用した特許出願書類作成支援ツールで、作業時間を大幅に削減 [yoursup.co.jp] (<https://yoursup.co.jp/>)
4. **Gatsbi:** AI 駆動の特許明細書自動生成ツールで、11 言語に対応 [gatsbi.com] (<https://www.gatsbi.com/ja/patent-writing>)

6.2 特許分析サービス

1. **知財デザイン:** 生成 AI を活用した特許データの処理・視覚化・分析サービスを提供 [株式会社知財デザイン] (<https://www.ip-design.co.jp/>)
2. **IP Force:** 特許情報プラットフォームとして、競合分析や技術動向調査を支援 [IP Force] (<https://ipforce.jp/>)

7. 関連書籍・セミナー情報

7.1 書籍

1. 『生成 AI を活用した特許明細書の書き方』(OpenAI o1 版) - よろず知財戦略コンサルティング [yorozuipsc.com](<https://yorozuipsc.com/blog/openai-o1ai>)
 - 生成 AI の基本からプロンプト設計、明細書作成のプロセスまで詳細に解説
2. 『AI 関連発明の特許明細書の書き方』 - 岩田諭 (発明推進協会, 2024 年)
 - 機械学習の技術的特性に応じた AI 関連発明の類型化と、各類型のサンプル明細書による実践ガイド
3. 『"知財 DX" の導入と推進ポイント』 - 技術情報協会 [gijutu.co.jp](https://www.gijutu.co.jp/doc/b_2292.htm)
 - 知財調査・分析、特許評価、特許明細書の作成、翻訳、電子契約などの実践的な手法を解説
4. 『キャリアアップのための知財実務のセオリー 技術を権利化する戦略と実行』
 - 岩永利彦
 - 知財戦略の立案、発明発掘から侵害紛争の対応まで、体系的に解説

7.2 セミナー・ウェビナー

1. 『生成 AI 活用による実践的な知財業務の効率化 2025』 - 情報機構 [johokiko.co.jp](https://johokiko.co.jp/seminar_chemical/AD250456.php)
 - 2025 年 4 月 24 日開催。ChatGPT、Claude、OpenAI o1 等を用いた特許データ分析、明細書作成の効率化手法を解説
2. 『生成 AI の特許活用法セミナー』 - 情報機構 [johokiko.co.jp](https://johokiko.co.jp/seminar_chemical/AC2503N4.php)
 - 2025 年 3 月 25 日開催。特許調査・出願権利化等におけるプロンプト作成等の実演を交えた解説
3. 『AI 関連発明の特許出願対応 2025』 - 情報機構 [johokiko.co.jp](https://johokiko.co.jp/seminar_chemical/AD250245.php)
 - 2025 年 2 月 19 日開催。AI 関連発明の捉え方、特許化において重要な進歩性の出し方、明細書の記載要件を解説
4. 『生成 AI を利用した特許分析事例 Apple の AI アシスタント戦略』 - Patentfield [patentfield.com](<https://patentfield.com/news/268>)
 - AI を活用した特許分析の実践的手法とケーススタディを提供

8. まとめ：包括的な技術牽制戦略の構築

生成 AI を活用した他社特許技術牽制の包括的な戦略をまとめると：

1. **情報収集と分析:** 生成 AI を用いて特許情報を効率的に収集・分析
2. **競合特許の「抜け穴」特定:** 技術的空白領域や未開拓の応用分野を発見
3. **新たな発明の創出:** 生成 AI による技術アイデアの創出と最適化
4. **戦略的な特許出願:** 競合技術を牽制する効果的な特許ポートフォリオの構築
5. **継続的なモニタリング:** 競合他社の動向を常に監視し、戦略を柔軟に調整

生成 AI の活用により、これらのプロセスを大幅に効率化し、より高度な技術牽制戦略の実現が可能となります。ただし、最終的な特許戦略の策定や出願書類の作成は、専門家のレビューを経ることが重要です。

生成 AI は特許戦略の強力な支援ツールとなります。法的効力のある特許出願には、適切な専門家（弁理士など）のサポートをお勧めします。本稿で紹介した書籍やセミナーを参考に、貴社の知財戦略を強化されることを期待しています。